はくかんさん

やるべ~ じゃ~

と喧嘩もどきをなだめてから、「

愉快に

愉快にやるベーじゃ—

第 101 号 H 29 年春号 法住寺 発行

何せ声がでかいのである。Aさんは何時もの 他意なく善人。時には喧嘩のように言い争う、 とはストレートに口にする、田舎の人たちは 下さり、会議の後など楽しいお酒をご一緒さ 全体の調和がとれるよう心配りできる方だ 和やかに行われた。何時も温顔、 ようにニコニコと聞いていて、「まぁまぁ~」 せてもらった。誰もがお酒が入れば思ったこ めされた。お寺の役員さんも長いことお勤め った。自然と様々な大切なお役を頼まれお勤 正月明けてAさんの二十三回忌の法要が 穏やかで、

伊豆市

いいなぁと思う。 じゃ~」には励まされる。シンプル、明快、 会の景色は変化しても、「 ったから、今の時代、科学や情報化が進み社 和し和んでいった。そうした芯を持った方だ ば声掛けし、暴れ者は毅然と諫めて全体は調 立ってお題目を唱えていた。沈んだ人がいれ Aさんは信心深く、何時も皆さんの先頭に 愉快に やるべ~

めもしたいが、ホッした。 か植えるだけは植え終えた。まだ支えや土止 ならない。一週間近くそんな作業をして何と 地名の「白岩」の通り岩が多い。思うように 重い、急な山の斜面を上まで持ち上げ穴掘り、 ければ…。背丈を超えるモミジはズッシリと にドッと…、枯れないうちに植えてしまわな 少しずつ注文してはいたのだが…、いっぺん 二月下旬に植木が四十本届いた、以前から

> 何かを感じていた が重なり、あれもこれもと気をもみながらも、

歩みが大自然に生きるモノの本来なのだ。 たりとした歩みに癒されたように想う。この うすると云うグツグツした思いが、森のゆっ 率化、情報化等に対する、そんなに急いでど をしている〟ということだった。今の世の効 に近いものが残っていたように思う。 "何か』は思うように書き表せない。のだが 、森の樹木は太古の昔から変わらない歩み Aさんが活躍した時代には、まだ森の歩み

の森の歩みを想い、 とはあり、一つひとつ乗り越えていくことは 選択肢の中から踏み出す道はただ一つ。 するのは、自分である。 りになるにしても、現実の目の前の事に対 意義あることだと思う。そして時に、大自然 スピード化等々、苦しんだり悩んだりするこ 門出の季節。若者が社会に出れば、効率化、 社会の変化は激しく速い。家族や仲間は頼 愉快に やるべ~ じゃ~ 一歩踏み出す時に 知力を絞り、多様 は 処

[寿量 の祈り 感謝と敬意

社会の皆さん大自然 ご先祖さま、 家族の皆さん ありがとうございます。 ありがとうございます。 ありがとうございます。 合掌 合合掌掌

この時期、お寺の所用や社会奉仕で出ること 作業はキツイものだったが、森の中で を感じていた。静かだけではない何 か::。 *″*

化いっぱい

子寺庭の山務日誌より

みも又あるのです。中でも季 きる「小さな発見」は格別です。 節の移ろいを感じることので た後のホッとする休息の楽し れるということや汗をながし 中でやっている内に無心にな 暑いはありますが、何より夢 とは云えまだまだ冬枯れの景 今は春分を過ぎて雨水の候。

色。その中に福寿草や立金花の小さな黄色の

花を見つ

す。 春 時には山 の枝等、 色々な木 た後は、 喜びはひ けた時 繭までが、 Ш 番が吹い としおで か ら の

> 舞い降りてきて、側溝をさらっている時に蔓 強さに圧倒される一瞬でもあります。 っと花器に入れてみます。自然の美しさ、力 んな時は持ち帰って小さな優しい草物とそ ものの見事な枝にめぐり会える事もあり、そ

じ等の作務があります。寒い、

私の仕事のひとつに庭そう

雪柳の白い枝に紫色の野の花を楚々と合わ 籠に入れて仏さまの迎え花と致しました。 力強い花でした。その一株を雪柳とふわっと る一株が目に入ったのでした。それは優しく と道路の石垣の間に見事に花を咲かせて うか…」と思った瞬間、目を疑いました。 何 花などありません。「やっぱり みたのですが、まだまだ蕾は固く咲いている 内を回り、上の駐車場、そして山まで捜して せて活けたかったからです。山門辺りから境 、諸葛菜)を捜していました。咲き始めている その方の七七日忌の前日。私は紫の花大根 あきらめよ

き人を重ねて思い出すこともあるでしょう。 した。これからもめぐる季節に咲く花に、亡 輪をさりげなく活けていました」とのことで した。「母も花が好きで、家のそこここに一 法事の当日、その花の前で娘さんと話しま

> 花は一瞬にして終わってしまうものですが、 っている様に思えてなりません。 人を想う『永遠の気持ち』と、どこかで繋が もうじき春のお彼岸。各々のお墓にも春の

ピック

花が優しく風に揺れることでしょう。

中伊豆立正会

中伊豆立正



寺の平井勝好 お題目に続い た。新年のお経 に開かれまし 二十一日(土) 新年会が一 会大題目講 て、原保・妙延 月 の 2

迎の挨拶。その後お茶会で新年懇親のひと時 なっていますので、お誘いあわせて伝統のお を過ごしました。檀家さんは立正会の会員に うと挨拶があり、当山の伊東修護持会長が歓 て参りましょ

頂いたサンシュウの大枝と藪椿

講を引き継いでまいりましょう。

星祭

渡り、清浄になっていきます。
ご出仕お上人のお経がこの白岩の地に響きが行われました。早朝から本堂に響く寿量品、

静岡、富士などからもご参詣でした。どの皆さん。近在は勿論、遠くは東京、厚木、若いご家族も多く、本堂には入りきれないほ流した後、二時からご祈祷、ご祈願。今年も流した後、二時からご祈祷、ご祈願。今年も

らに自分の星を持っていて、節分、旧暦の正『善星皆来 悪星退散』、誰もが生まれなが

殊にランドセルをしょって春からの入学、が成就することを心から祈りました。いごとをご祈願するのです。皆さんのご祈願月に、昨年の一年を感謝し、今年の無事や願

寺 瓜島上人 ありがとうございました。上人、清水・耀海寺 斎藤上人、三島・受法韮山・妙正寺 鵜沢上人、身延・妙福寺 井出[ご出仕のお上人] 三島・本覚寺 望月上人、

サプライ プレゼント

この寺報が前回で一○○号、二十五年間続

頂きました。
でにサプライプレゼントを
がいたことは、お知らせした

木更津・光明寺の石野澄のアレンジメントが届いたのアレンジメントが届いたのです。洋明上人が初行の時、皆さんと団参させて頂いた市川市真間の本山・弘いた市川市真間の本山・弘



健康を祈る、可愛いお子さんの姿は感動でし

あの時は大変 にお世話になり、ご記憶の を思います。 を思います。 もらい、毎回 音子寺庭と共 に励ましても

こつプレゼノ、よらってきました。

てもらったのでした。合掌子さんから頂いたものと感謝し、また励ましてのプレゼントは、今は亡き貫首さまと澄

お知らせ

境内作業の集合時間

ので、宜しくお願い致します。ました。尚、夏と秋は従来通り八時からですの掃除の集合時間は八時三十分からと決めの

3

行事予定

◎境内整備作業 三月十二日 元村一班、

十二月十日 元村23班七月十六日 西、 九月十日 清水①、

◎彼岸会 三月二○日(月)、九月二三日(土)

◎お盆の施餓鬼会 八月三日(木)

◎寺子屋 八月七、八日(月、火)

◎お会式 十月二十二日((日)

水に流す

す。それは「水に流す」です。最近、よく心の中で顔を出す言葉がありま

竜王水神明王の法水で水行いたしました。昨年の冬も本堂前に水行樽を安置し、浄行

伊東市 伊東真一郎殿 尊母葬儀砌西 佐藤 秀夫殿 愛妻七七日忌砌西 佐藤 敦 殿 尊父葬儀砌小川 渡辺 大剛殿 尊母葬儀砌小川 渡辺 大剛殿 尊母葬儀砌十二 納金丘 [一月~二月]

きれいになるのですね。のです。掃除もやはり昔からの水拭きが一番は洗剤以上にものを清め洗い流す力があるす」清めるという意味があります。実は水にこの水行には、法水で身と心の垢を「水に流

*

こえます。
そもそも「水に流す」を辞書で調べますと、

法華経の教えには、ものごとを受け入れ、 法華経の教えには、ものごとを受け入れ、 法華経の教えには、ものごとを受け入れ、 といるけど…」なんです。時には修行、その思いを心の奥底にあえて大切に懐くことも必いを心の奥底にあえて大切に懐くことも必ない、心にトゲが刺さっているようで、気にない、心にトゲが刺さっているようで、気にない、心にトゲが刺さっているようで、気になってしまう時、そんな時は「水に流す」。 しかし、どうしても受け入れない、許せないを心ののです。

い流された心は本当の姿を現してくれると「水に流す」。そうすると水の力によって洗心が泥にまみれている時、何度も何度も

思います。

日の大荒行堂の鬼子母尊神の両脇

百日の大荒行堂の鬼子母尊神の両脇には「寒水白粥凡骨将死」理懺事悔聖胎自生」の掛け軸が彫られています。「寒風の中一日のか行で法水を頂戴し、僅かのお粥で七回の水行で法水を頂戴し、僅かのお粥でとその身・口・意に読経、お題目を唱え、とその身・口・意に読経、お題目を唱え、とその身・口・意に読経、お題目を唱え、自らの罪を懺悔、真理を悟る智力を頂き、清浄な新しい自分が生れる」という意味です。

k



お寺のホームページ

檢索▶[伊豆 法住寺]

スマホ対応 ブログもあります。